

平成26年第1回定例会

平成26年3月5日

## 一般質問通告書

質問順 ①

質問事項	質問要旨
8番	山本清悟
1. 精華町の農業について	<p>我が国農業の構造改革を推進するため、農地利用の集積・集約化を行う「農地中間管理機構」（以下「機構」と略）を都道府県段階に創設するとともに、機構の設立にあわせ、遊休農地解消措置の改善、青年等の就農促進策の強化、農業法人に対する投資の円滑化等を講じるため、平成25年12月5日に農地中間管理事業の推進に関する法律及び農業の構造改革を推進するための農業経営基盤強化促進法等の一部を改正する等の2法が成立、12月13日に公布された。本町の農業にどのように反映されるのか伺う。</p> <p>①今まで、農業構造改革を進めるための経営基盤強化促進が図られてきたが、「機構」が設立され主に何が変わらるのか。</p> <p>②「機構」が京都府に設置されるが、そのなかで本町が今後どの様な役割を担うのか。</p> <p>③関連2法施行（26年3月と6月）により精華町農業にどの様な影響があるのか。</p> <p>④関連し、農地法が一部改正されるが所有者への影響は。</p> <p>⑤担い手不足は法推進で解消する可能性はあるのか。</p> <p>⑥予算措置が予定されているが本町への措置と内容は。</p>
2. 職員の教育について	職員がスムーズに業務を遂行するために業務知識向上をはじめ、コンプライアンスや倫理の教育が重要と考えるがどの様に取り組まれているのかを伺う。また、職員の倫理条例などの制定を提案してきたが「条例制定をしている市町村は、不祥事が発生しているから本町は必要でない」との見解であったが、その考えは、現在も変わらないのか。
3. 山手幹線について	現在と、京田辺市と接続された時の山手幹線の交通量及び流れの分析は。また、南進事業推進の具体的な進捗状況を伺う。

質問事項	質問要旨
5番	森田 喜久
1. 光台1号線の事故減少策としての自動車の精華大通りへの誘導策について	<p>精華大通りの信号機を避けて、光台1号線を通行する自動車が多数ある。そのためもあって、光台1号線での事故が、相当数発生しているのではないかと思われる。昨年の事故件数とこれまでの対応策について伺う。</p> <p>また、光台1号線から幹線道路である精華大通りへ自動車の流れを誘導することで、光台1号線での事故も減少し、幹線道路と生活道路の役割分担も図れると思われる。自動車の誘導策として、精華大通りの信号機を法定速度で走行しながら円滑に通過できるように、信号機の青色の時間調整などすることができないか。</p>
2. 災害時の住民避難に関する防災体制はどのようになっているか	<p>昨年9月の台風18号による大雨の影響で、京都府や滋賀県、兵庫県内では河川が増水し、避難指示や避難勧告などが相次いで発令された。各地で浸水の被害も広がった。</p> <p>京都市は河川氾濫の恐れがあるなどとして、右京区、西京区、伏見区内の約5万305世帯、12万8395人に避難勧告を出した。また、京都府福知山市は、大雨で市内を流れる由良川が氾濫する恐れがあるとして、全域の約3万5千世帯、約8万1千人に避難指示を出した、との報道があったのですが、本町でも大雨特別警報が発令され、5000人以上の避難指示がだされた場合と、大きな地震が発生し家屋崩壊などで避難指示がだされた場合について伺う。</p> <p>○精華町の住民避難指示及び避難所の受け入れ体制と役割について伺う。</p>

質問事項	質問要旨
19番	坪井久行
1. 良質な中学校給食を早期に実現することについて	<p>12月議会では、自校方式の西中での給食施設用地の問題と、建設費の問題を中心に議論した。議論は道半ばであり、引き続き議論するとともに、新たな問題についても問題提起したい。</p> <p>(1) 施政方針で表明された「『おばんざい』のような精華町らしい給食づくりを追求したい」という視点に注目するものであるが、そのための給食の方式、形態をどのように考えられるか。</p> <p>(2) どの子にもおいしい給食を食べ、健やかに成長する権利があり、とりわけ、アレルギーをもつ生徒のためには、十分なアレルギー対策が必要である。教育行政は「センター方式でのアレルギー対策のために部屋と人員の確保が必要」と答弁されてきた。アレルギー対策は除去食だけでなく、代替食も追求されるということか。また、現在行っていない小学校でも当然追求すべきであるが、いかがか。</p> <p>(3) 西中学校では、300～400m<sup>2</sup>の自校方式の給食室の設置は可能であり、また、800食程度の給食調理も可能ではないか。</p> <p>(4) 財政的にも、センター方式よりも自校方式の方が建設費が安価ではないか。運営費は若干自校方式の方が高くつくだろうが、トータルすれば、自校方式の方が経済的ではないか。再度伺う。</p>
2. 狛田地域の川原橋の早期着地について	橋の構造体は基本的に完成しているのに、いまだ北端が着地できず、長いこと利用できずに仮設橋のままであり、住民から待望の声が強く聞かれる。府民の貴重な税金でつくった橋であり、このままでは公的責任が問われる。町も町道整備の責務がある。昨年3月議会の予算決算委員会で着地の目途を質問したところ、1年以内には実現できるように努力する、とのことであった。まもなく、あれから1年になるが、どこまで進展したのか、また、改めて目途を伺う。

質問事項	質問要旨
1番 岡本篤	
1. 「くるりんバス」の今後について	<p>先日、新聞紙上に精華くるりんバスの利用低迷の記事が掲載された。平成17年に運行を開始して以来、ルート変更やダイヤ改正など工夫をされ、最近では学研都市病院へのアクセスも確保された。</p> <p>くるりんバスについては、高齢者や交通弱者の身近な移動手段として一定の役割を果たしていると理解しているが、利用者の増加にはつながっていないのが現状である。</p> <p>コミュニティバスを運営する自治体では、利用低迷が課題になることが多いが、福祉バスからコミュニティバス。さらに、コミュニティバスからデマンドバスへと運営方針を変更している自治体もあり、本町においても利用者増加の対策として、ダイヤ改正やルートの見直しにより住民ニーズへの対応が不可欠であると考えるが、いかがか。</p>
2. 消防団の強化について	<p>昨今、台風による被害や将来起こりうる南海トラフ地震など、いつ大災害が発生してもおかしくない状況にある。今以上の地域防災力の強化が必要になってくる。</p> <p>災害発生時には、消防団や自主防災会の連携・協力が必要不可欠となってくる。そのためにも消防団員の入団促進など消防団の体制強化が必要と考えるが本町の考えを伺う。</p>

質問事項	質問要旨
	9番 三原和久
1. 学力向上について	<p>グローバル化の進展により、世界全体が急速に変化する中にあって、教育こそが社会全体の今後の一層の発展を実現する基盤であることは論を待たないところです。</p> <p>また、未曾有の災害の発生において、あらためて「人の絆」の大切さが認識されましたが、これは、子供たちが力強く生き抜き未来を切り開く力を備えるうえで大切なキーワードであり、教育を通じて育まれるべきものと考えます。将来の精華町を支え、発展させていく、自主自立の精神を持った人材の育成を目指すべきではないでしょうか。</p> <p>子どもたちに、将来役に立つ力として、例えばプレゼンテーション力など、「自分で考えたことを、自分の言葉で発信する力」が身に付ければ、どのような職業にも就けると私は思います。言語力の育成について、今後どのように充実させていくのか、伺います。</p>
2. 教職員の事務負担軽減	<p>先日、年度末を控えて事務を整理するために、職員室から個人情報を含むUSBメモリーに保存し、その後紛失しましたが、実体は教員の事務の多さだと思います。教員の事務の処理を軽減し、教育活動に充分な時間を確保するため、ICTの整備と活用をさらに進めるべきではないでしょうか。見解を伺います。</p>
3. 防災対策とリニア新幹線誘致について	<p>昨年来、立て続けに発生した豪雨の共通点は、台風や梅雨前線、秋雨前線のように事前に想定された豪雨ではなく、総雨量はさほど多くはないが、短時間にバケツをひっくり返したような大量の雨が局地的に襲ったことにより、想像以上の災害が発生したものと思われます。特に、平成24年8月末に発生した、精華町でも107mmの記録的な短時間大雨、ゲリラ豪雨を記録し、家屋の床上・床下浸水、町道・農道の崩壊、土砂崩れなど相次ぎ、停電も発生し、今後、この様な環境変化はいつ起こるかわかりません。</p> <p>関西文化学術研究都市の中心地精華町にリニア新幹線の新駅誘致など、誘致に向け、防災対策が万全な精華町をアピールするためにも、近隣の市町村との連携を含めて防災対策はどのような考え方か、伺います。</p>

質問事項	質問要旨
10番	柚木弘子
1. 成人用肺炎球菌ワクチンの接種について	<p>肺炎は、日本人の死因第3位で危険な病気である。肺炎死者の95%以上は高齢者であり（厚労省・2011年調査）高齢者にとって恐ろしい病気だ。又、高齢者のかかる肺炎の8割は肺炎球菌によるものである。肺炎球菌による肺炎罹患を防ぐため、今、高齢者や慢性持病のある人に、肺炎球菌ワクチンの接種が推奨されている。</p> <p>本町では、健康増進の取り組みに力を入れており、町民が健康な日々を過ごすことを目指している。そのためには、病気の予防が重要である。このワクチンは、接種後5～7年間にわたって効果が持続するので、多くの人が摂取すると細菌蔓延予防の公衆衛生面からも有効である。開業医からは、接種代金は7000円程度と聞いている。</p> <p>本年1月、厚労省はこの肺炎球菌ワクチンを自治体が行う定期予防接種に加えることを了承し、政省令の改正を経て、10月からの実施をめざしている。成人用肺炎球菌ワクチンは65歳か、60歳以上で心臓や呼吸器の機能などに障害のある高齢者が対象である。国の公費助成の詳細はまだ不明であるが、町でも助成が行われるよう求める。その対応策を問う。</p>
2. ゆき届いた教育を進めるために	<p>(1) 少人数学級について</p> <p>現在、京都式少人数教育のもと、本町の学校では少人数授業、少人数学級、チームティーチングの3手法から選択して授業が行われている。そのうち、少人数クラス編成については、各学校の実態に応じていくつかの学校で採用されているが、いまだに36～40人程度の多人數学級が、合計11学年ほど残っている。それらの学年・学級では、チームティーチングやクラスを分割した少人数授業が行われている。少人数授業も学力形成に一定の効果があると認めるものであるが、さまざまな教育実践を通して学者・研究者、教職員からは少人数クラス編成での教育効果の大きさが指摘されている。</p> <p>少人数クラスでなら、①どの教科も少人数で学べる、②学習集団、生活集団が一致した安定した落ち着きの中で学べる、③教員の添削、採点、評価などの処理負担を軽減できる、④子ども達に目が行き届き、つながりが強くなる、などの利点がある。</p>

	<p>少人数クラス編成についての見解を問う。</p> <p>(2) 小学校高学年の専科指導について</p> <p>近畿他府県では専科指導が行われているが、京都ではまだ実施されていない。担任が一般教科と専門教科のすべてを担い、教育効果を上げるのは負担が大きく困難である。授業準備時間も十分には取れない。専科教育が実施されれば、子どもたちへの教育的効果と共に、授業時間数の多い高学年担任教師の負担を軽減できる。</p> <p>専科指導についての見解を問う。</p>
3. 教職員の健康を 守るために	<p>教職員が元気ではつらつとしていてこそ、子どもたちに希望や未来を語ることができる。そのため、働くルールの確立が必要である。しかし、超過勤務の実態は問題にされながら、実効ある改善は進んでおらず、勤務実態は深刻だ。2012年の京都教職員組合の調査によると、京都府の教職員の時間外勤務は月平均72時間であり、これに持ち帰り仕事が月21時間加わる。厚労省が過労死認定基準としている80時間を大幅に超えている。</p> <p>そこで以下のことを問う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①本町の教職員の病気休暇、健康状態の実態はどうか。</li> <li>②長時間勤務を減らすための方策は。</li> <li>③「町立学校安全衛生委員会」は、教職員の働くルール作りにどのように機能しているか。</li> <li>④各学校の休憩室整備状況はどうか。</li> <li>⑤休憩時間はいかにして確保するか。</li> </ul>

質問事項	質問要旨
18番	佐々木 雅彦
1. 介護保険	<p>①予定されている改変が実施された場合、利用者、事業者、への影響を問う。</p> <p>②介護にかかるNPOやボランティアの考え方を問う。</p> <p>③町財政への影響を問う。</p> <p>④町としての総合的な見解を問う。</p>
2. 抜け道・生活道路の安全対策	<p>交通安全施設は、幹線道路から整備される傾向がある。一方、それをかいぐるような利用者の行動も多く、危険を惹起している。</p> <p>①抜け道。例示として精華中の南側、ガーデンシティの北側、北ノ堂と馬渕の間など、生活道路に通過車両が多数進入している現状と対策を問う。</p> <p>②防犯灯。例示として山手幹線北稲・植田間などは、幹線道路であると同時に通勤通学・生活道路でもある。しかし、防犯灯の設置は一部にしかなく、安全は確保されていない。対策を問う。</p> <p>③「健康づくり」のハード面での整備という意味もあり、総合的な対策を問う。</p>
3. 公共的活動と民間活動	<p>公共的活動とは、民間セクターの活動だが、公共をサポートする意味をもつものと解する。しかし、その線引きは曖昧である。</p> <p>①定義を問う。</p> <p>②例示として、祝園駅東西連絡通路にある「防犯作品」は、どのように考えるのか。</p> <p>③民間活動への支援はどうするのか。</p> <p>④後援扱いも含み、今後の方向性を問う。</p>

質問事項	質問要旨
2番	宮崎睦子
1. 南部地域・北部地域に早期の備蓄倉庫設置を	<p>昨年12月議会補正予算で、27年度完成改築予定の精華中学校に、新たに備蓄倉庫と自家発電システム設置議案が議決されました。本町住民の発災時における安心感はますます高まっていくと考えます。</p> <p>しかしながら、この新設の備蓄倉庫が完成すると、備蓄倉庫は庁舎周辺に密集することになります。今、飛地である南部地域と北部地域には設置されていない現状です。桜が丘のある自主防災会は、自ら備蓄をしつつあるとも伺っています。</p> <p>地域間格差は早期に解決する必要があると考え、同一の安心感を得るため早期の2地区に備蓄倉庫を設置することを求めます。今後の計画について伺います。</p>
2. カラス被害対策について	<p>ステーションでゴミ収集している地域について伺います。</p> <p>最近特にカラス被害により、ステーションの前にゴミが散乱する被害を目にします。住民からの声、または、その対策について伺います。</p>
3. ニコニコ運動の導入について	<p>『健康ダカラ毎日が楽しい！せいか365』運動が始動しています。心身ともに健康であることは人間みんなの願いです。しかしながら時に病に悩まされる事もあります。そんな時、皆保険制度という日本国民全体でフォローし合う素晴らしい制度を有していますが、その制度が急激な医療費増加により危機が叫ばれています。必要な時に必要な医療が受けられる制度を維持するため、日々健康を心がけていく事は言うまでもありません。</p> <p>そこで、非論理的にみえるかもしれません、医学的にも実証されている「笑い」をより住民の意識に定着させるため、毎月25日を「ニコニコday」と制定することを提案します。</p>
4. 桜が丘地区の安全対策について	<p>本年1月、桜が丘地区で2件の交通事故が発生しました。地名に「丘」がついているように給水タンクを頂上にきつい勾配があります。そのため、どうしてもよう壁を造らざるおえない現状です。</p> <p>カーブミラーの増設、注意喚起を促す看板設置など対策を講じてこ</p>

	られましたが、事故の検証をふまえ、この地形にふさわしいさらなる安全対策について伺います。
5. J R 祝園駅・近鉄新祝園駅に学研の冠を	企業誘致も進み、旧私のしごと館の今後の活用が期待される「第2次モテ期」である関西文化学術研究都市の表玄関として、J R 祝園駅・近鉄新祝園駅に冠で「学研」の記述を府に強く要望することを提案します。

質問事項	質問要旨
	<p style="text-align: center;">6番 今方晴美</p>
1. 「メタボ」の次は「ロコモ」と健康寿命の延伸	<p>厚生労働省が進める国民の健康づくり運動「健康日本21」では、2013年3月からの10年間を対象にした第2次計画の目標に健康寿命の延伸が掲げられました。</p> <p>健康寿命の增加分が平均寿命の增加分を上回ることを目標にしており、平均寿命と健康寿命の差が縮まれば、健康で元気な高齢者が増え、その結果、医療や介護など、年々膨らむ高齢者福祉の費用を抑える効果も期待できることになると言われております。</p> <p>また、骨や筋肉、関節などの運動器官の障害によって、寝たきりや要介護状態を引き起こすロコモティブシンドrome（運動器症候群）の認知度を80%にする目標を掲げており、メタボと並んでロコモ予防の認知度を高めるため対策を講じていくことも健康寿命の延伸につながると考えられております。</p> <p>そこで、次の点を伺います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①本町の平均寿命と健康寿命、その差は。</li> <li>②第2期精華町健康増進計画では、健康寿命の延伸については明記をされておりません。健康寿命の延伸対策は。</li> <li>③ロコモティブシンドromeの認知度を高める取り組みを。</li> <li>④健康診断の受診やスポーツ活動への参加などで、ポイントをためると特典を利用することができる「健康マイレージ制度」の導入を。</li> </ul>
2. 千年に一度の学びの場へ。震災学習の実施	<p>東日本大震災から3年、東北の被災地を修学旅行などで訪れる学校が増加をしており、宮城県では、相談窓口となる「みやぎ教育旅行等コーディネート支援センター」を昨年8月に新設しております。</p> <p>教育旅行の目的は、被災の現場で防災・減災を学ぶ“生きた震災学習”で、訪れた児童・生徒たちは、津波のすさまじさを物語る沿岸地域の風景や、かけがえのない家族や友人を失った語り部たちの体験談に、災害の怖さをあらためて思い知るとともに、生命の尊さや人間の強さなど、机上では実感し得ない大切な教訓も学び取っていると言います。</p> <p>本町においても、東日本大震災を、子どもたちにたくましさや優しさを教える生きた教材として、今、最大限に活かすべきであると考えます。</p> <p>修学旅行で被災地へ行って現実を肌で実感しながら学ぶことについて、いかがお考えでしょうか。</p>

質問事項	質問要旨
12番	塩井幹雄
1. かしのき苑の今後について	<p>かしのき苑は平成5年に建設され、町の地域福祉の中心施設として役割を担ってきました。近年、少子高齢化を迎え、福祉施策の多様化、社会情勢の変化もあり、今以上福祉施設の中心拠点としての重要な役割を担っていく必要がある。しかしながら20年経過し施設の老朽化もあり、施設整備、運営方法、使用方法など多くの課題があるのではないかと認識している。そこで伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①かしのき苑の現状と課題は。</li> <li>②「かしのき苑あり方検討会議」について。</li> <li>③指定管理者制度を導入の考えはないのか。</li> </ul>
2. 指定管理者制度導入後の施設について	<p>去年4月、指定管理者制度によりNPO体育協会に管理運営を委託した4つの施設（むくのきセンター、打越台グラウンド・テニスコート、木津川河川敷、池谷テニスコート）の状況を伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①4施設の運営状況は。</li> <li>②今後の施設整備について。</li> <li>③利用者の利用促進策について。</li> </ul>